

ふくりゅう

発行所 日本下水文化研究会運営委員会
 発行責任者 谷口尚弘(運営委員会副代表)
 発行年月日 平成9年7月25日
 印刷所 (株)愛甲社
 編集 小松建司 新澤紀昭
 春・夏号(通巻8号)

『多摩川源流と小菅村源流祭を訪ねる会』に参加して

日本下水道事業団常任参与
北井 克彦

この度は、多摩川の源流という普通ならば殆ど訪れる機会のない所へ連れて行って頂いて誠に有り難う御座いました。幹事の方々に厚く御礼申し上げます。

何か感想をと言う事ですが、私はこのツアーで二点程考えさせられる事がございました。その一つは、東京都の水道局の職員が、都民の飲料水確保のために代々払って来ている執念とも言うべき努力についてです。水道公務員の魂があるとすれば、正にこれであろうと思いました。

当時の尾崎市長をあのような山奥まで連れて行っているのにも感心しました。(段取りを調べた担当者がいたはずです。)私は三重県で育ちましたが、衆議院議員尾崎行雄の選挙区は三重でしたから、小学生位のときによく名前を聞きました。父も母もいつも一票を投じていたようです。

私は今、事業団の研修本部にいて全国の地方公共団体から集まる下水道担当職員の研修に関係していますが、全国ベースで言うと下水道の管理運営はまだまだこれからですので、水道公務員に負けないような下水道公務員の魂が育って欲しいと思います。否むしろ、他人の水源を守る事に生きがいを見出す下水道公務員の方が、ほんの少し次元の高い意識が必要かも知れません。

二点目は、過疎の村の暮らしについてです。当日は、お祭り

のこととて人通りも多く、ヘルスセンターのお風呂も満員でしたが、普通の日々はそう容易なことではないと思います。高齢化も進んでいる筈です。

然しながらこの山奥の人々には、国土の保全、水資源の保全(森林の保全)という誠に大切な仕事をして頂いている訳で、このような人々の暮らしを守るためには、一過性の補助金と公共事業一遍倒の、考えでなしに、都市側の税金で月給を払う位の発想の転換が必要ではないだろうか、その方が却って無駄遣いでなくなるのではないだろうかという気がした次第です。

山村は補助金付けになっている仕送り経済などという意見があるようですが、なんという都市側の不遜な考え方かと思えます。山村は大切な仕事をしているのに報われないということではないのでしょうか。

終わりに駄句を二つ程、どちらも句会では一票も入りませんでした。

大菩薩峠は近く河鹿谷

梅雨出水谷ばかりになる村である



日本下水道文化研究会 第2回総会開催される

平成9年3月29日(土)午前10時より神田学士会館で第2回目の総会が開かれました。北海道大学総長丹保憲仁先生の記念講演「近代システムの後」のお話があり、その後、総会の審理に入りました。

正会員の出席47名、委任状の提出者120名で総会は成立し、議事にはいることができました。議事の詳細につきましては、下水道文化9号に任せることとして、21世紀に向けた当会の運営等の活動方針がきまり、日本下水道文化研究会も新たな活動期に入って行くものと思われまします。みなさまのますますのご協力をお願いいたします。

記 小松



お知らせ

'97バルトン忌の開催

97年バルトン忌は青山墓地においていつものように8月5日(火)に開催されます。9時30分(必着)に、青山霊園管理事務所前にお集まりください。墓参後昼食をして解散となります。



下水道文化への関心が高まってきているいま、あなたの研究成果の発表をお待ちしています

=第4回下水道文化研究発表会を平成9年11月21日に開催します=

「下水道文化研究発表会」も今年で第4回を数えることになりました。前3回までに発表された研究成果は91編にのぼります。お寄せいただいた研究成果は『下水道文化研究発表会講演集』として当会から刊行し、会員のみなさまをはじめとして関係機関や大学図書館などに配付しております。貴重な研究成果ばかりなので、大変好評で図書館などで読まれた方から“頒けてもらえないか”といった要望も寄せられております。

第4回「下水道文化研究発表会」を本年11月21日(金)に、東京神田「学士会館」で開催する事になりました。発表のお申込み締切日は

平成9年7月15日(火)です。

お申込みいただいた発表内容の原稿(講演集としてまとめます)の提出期限は

平成9年9月20日(土)です。

詳しくは、別送の《第4回下水道文化研究発表会の開催と発表申込みについて》のご案内をお読み下さい。

第1回定例研究会

9月12日(金)18:30~21:00まで日本水道協会会議室(新宿駅南口)において第1回定例研究会を開催いたします。

演題は森田英樹氏の「江戸の廁と施肥事情」酒井彰氏の「地域水環境管理システムの新たな枠組み構築の視点」の2題です。

関西支部'97水環境セミナー

9月13日(土)10:00~17:00まで琵琶湖博物館セミナー室において'97水環境セミナーを開催します。嘉田由紀子氏の講演の後昼食(会で用意)、午後の部として、高橋正宏氏の「琵琶湖を巡る最近の動向」、八木康雄氏の「環境影響法と最近の動向」、三本木徹氏の「廃棄物処理法改正法と最近の動向」、稲場紀久雄氏「新しい世紀へ、ゴルディオンの結び目を解こう!」が予定されております。参加は無料ですが、昼食代費用1000円がかかるそうです。

なお、当日は、近々配布される「叢書5号」を持参してくださいとのことです。

本の紹介

=下水道文化叢書第3号『川柳・江戸下水』
が市販される本になりました=

題して『江戸の下水道』

栗田 彰・著 青蛙房・刊
定価2400円+税

自己宣伝みたいで申し訳ありませんが、一昨年、当研究会から刊行された下水道文化叢書第3号『川柳・江戸下水』が青蛙房(せいあぼう)という出版社から『江戸の下水道』と改題して発売されました。

青蛙房さんが表紙の帯にこんな宣伝文句をつけてくれました。「水に流せぬ江戸ばなし/下水のなかの“江戸ざらえ”/米のとぎ汁、鍋底の煤、銭湯の湯…江戸の下水に流れるものは暮らしのにおいの生活排水/尿尿は畑に撒くためのものだから流すなどもったいない/古川柳や「町触れ」を手がかりに、下水道局の専門家がさぐった江戸庶民の下水をめぐる暮らし。」

この本は『川柳・江戸下水』と大筋では変わりませんが、その後拾い出した川柳や、絵図を差し替えたほか本文にも若干手を加え、下水と「とぶ」/「流し」と井戸端/雨と「湯」/下水のゆくえ/つけたり雪隠と小便所というように構成し直しました。

一冊でも多く売れますし、私も助かりますし、また本屋さんにご注文いただくことも、本の宣伝にもなるそうですので、どうぞ、お近くの書店にてお買い求めくださいますようよろしくお願い申し上げます。
(栗田)



写真集『多摩川 水の旅』 勝谷寛子

多摩川の源流から河口までを6年かけて撮り歩いた写真集です。

“多摩川物語”と言いたくなるような写真集だと思います。川と人々の暮らしとのかかわりが撮られているからです。源流付近の過疎、なお、そこに暮らす人々。河原で川に親しむ人たちの姿、土手でお花見を楽しむ人々、などなど。

印象的な写真がありました。「突然の大雨 奥多摩町氷川」は雨を撮っています。広重の浮世絵にも雨を描いたものがありますが、それと同じように雨が線になって写されています。

もう一枚は、雨そのものではありませんが、雨のあとの川を撮ったもので「大雨のあとの水量はものすごい

国立谷保」です。豪雨のあとの水嵩を増した川の「ものすごい」音が聞こえてくるようです。水源林の「檜の枝うち 奥多摩町」も印象的な一枚です。

勝谷さんは「現代写真研究所」に在籍されるアマチュアカメラマンです。幼いころから多摩川に親しんで育ったそうで、『この写真集が自然を守っていく一助になれば』と書いておられます。

写真集はA4版108ページ全部がモノクロ写真です。頒価3000円

購入申込みは、勝谷寛子さんへ

〒183 府中市紅葉台3-54-19

TEL 0423-63-9050

(栗田)

《連載一》
下水に関する江戸町触

道築き／下水浚い／ごみ芥入申間敷事「一六四八年二月二日」
御請負申事
一町中海道悪敷所江浅草砂二海砂ませ、吉町之内高ひくきなき様
二中高二築可申事、井ごみ又とろにて海道つき申間敷事
一下水井表のみぞ滞なき様二所々二面ごみをさらへ上ケ可申候、
下水江ごみあくた少も入申間敷候、若ごみあくた入候ハ、可
為曲事
右之趣相心得申候間、少も違背申間敷候、為後日如件
正保五年子二月廿一日 月行事判形
御奉行所

※「御請負申事」というのは、本文と同じ内容の町触れ
が出されたので、町役人が確かに承ったと奉行所に言
う事。
「海道」は街道。道路のことも言う。

「悪敷所江」は悪敷所へ。
「ごみ又とろ」はゴミ又は泥。
「所々二面」は所々にて。

「曲事」はへくせごとくで、処罰。
「月行事」はへがちぎようじで、その月に町政を担
当する者。

地主や家主といった町役人がその町の町政を毎月交替
で執り行った。
※正保五年二月十五日に慶安と改元された。この年は、

家康が江戸へ入った天正十八年から数えて五十八年目、
江戸に幕府がおかれた慶長八年から数えて四十五年目、
に当たる。將軍は三代家光。これまでに神田川など江
戸の掘割なども開削されて、寛永年間（一六二四）一
六四四）には城下町が完成され、舗装されたいいわけて
ないから、道路は雨でも降ると道路はあちこち壊れて
てあろう。道が悪くなっているところを築くように命
じている。同じ触れの中下水路と道路が一体のも
とらえらる。同時のは下水路と道路が一体のも
とらえらる。同時のは下水路と道路が一体のも

日本下水文化研究会連絡場所の変更
(社)全国上下水道コンサルタント協会の移
転に伴い、当会の連絡先も下記のように変更
になりました。当分の間、郵便物は回送されま
す。
〒106 東京都港区東麻布1-8-7
平和堂ビル別館3階
TEL 03-3584-0919(変更なし)

『水とくらし』第7号を発行！
～創設10年迎えた『水とくらしを考える下水道の会』～
ユニークな活動を続けている山形県の『水とくらしを
考える下水道の会』(会長・阿部康子氏)は、このほど
機関誌『水とくらし』第7号を発刊した。
山形市は、市民の目線で下水道の使用を進めようし
ている。このため女性市民から非常勤で特別職の普及
相談員を募り、相談員と市民の対話を通じて下水道を
市民のものにしようとしている。第7号は、同会会員と相
談員との懇談会で明らかになった相談員の苦心談を
興味深く伝えている。
なお、同会は昭和63年に創設され、今年10年目。
阿部会長を中心にした関係者の地道な努力の賜物で
ある。同会が山紫水明の山形県の環境保全に果たし
ている意義と役割は極めて高く評価されており、さらなる
活躍が期待されている。
詳しい情報が欲しい人は同会事務局の山形市下水
道部管理課まで。(電話0236-41-1212内線535)
(記・蓼倉虫)

編集後記

今年の春、人事異動があり、異動してしま
いました。そのおかげかどうかはわかりません
が、会報の発行が遅くなってしまいました。春
号と夏号の合併となってしまいました。
東京の水の科学館や滋賀県の琵琶湖博物
館など記事はあるのですがスペースの都合で
次回に廻させていただきます。
(建)

ふくりゅうでは原稿を募集しています。身近な話
題などでも結構ですので送ってください。
〒267 千葉市緑区土気町1580-66
小松 建司
どしどし送ってください。